

「座談会特集」下巻の発行にあたって

昨年七月、日本医家新聞クラブの機関誌「医家三昧」に、およそ半世紀にわたって掲載された座談会の中から、いまだお一読に値するものを選びとり、特集号を発行したところ、クラブ内外から大きな話題を集めました。

全国の医学生や学部の教授らスタッフに贈呈、アンケートには協力頂きましたが、日本医学の歩みを顧み、「解剖新説」に至る第三巻や、「解剖の精進」下バトグラフののぞきめり、など学問的な興味をひくものは、山崎勇士さん原作の「解剖」「白い巨塔」をめぐって、が共感をよぶかやうです。

当時の各雑誌一線の研究者や著名人らを集めての座談会は、巨大な座談会集でも許されないほどの「貴顕会」ものです。ここに、その記録を含めて昭和三十一年（一九五七）五十二年（一九七七）までの中から十二編を運び、下巻として出すことになりました。せよ、健康のつやくつらさながら、お楽しみ下さい。

二〇〇六年七月一日

式典 御堂というのは、古いでしょうか。

講義 それは古いです。なつか、建て替わったんですけれども、つまりその趣意がいつまで残っているか、それから、御堂台やメインデイトといった、お茶の水メインデイトだったり、護国館のキーコートといったところがある。

ドイツ留学時代

講義 先生は護国デイトにいらしたのだから、明治三十四年です。

講義 その時のドイツ人は日本をまだよく知らなかったんですね。

先生 日本人は、交際人だといっておきましては、上流の人は日本人ではないのですけれども、普通の人は「フューイーン」といって呼んでいましたね。

式典 ドイツはどこにいらしたんですか。

先生 最初ベルリンにいました。ウィーンには公使館が、朝、友人を呼びまして、留学としようとなつたところで行ける者が四、五人だけありました。

講義 護国館先生という方は、注まれているけれども、おいくつですか。先生は後

でどうでしょうか。

先生 もう少し早くや。

先生 入沢先生に話をや。

先生 そんなにまででしょうか。

式典 先生がドイツにいらしたことはおは、護国館先生には、ええ、いろいろしたなつたかなあ。

先生 ええ、私も事前にお知りになりましたが、式典 私がウィーンで遊んでいた時は、護国館先生がウィーンで、行っていました。日本人の写真があるんですよ。よく見たら護国館先生な人ですよ。隠れても、先生はこの家にいらしたという話ですね。先生と一層にはおんなの人がドイツに行っていました。

日本の興亡をみる

講義 日清戦争なんかも、よく覚えていらしゃるわけですか。

先生 日清戦争については、ときどき人に聞かれますともあるのですが、大学卒業

後、それでもこの前、白田閣をやりまして、手帳をやる前に返却するするというの「両方を返却する」といってました。「コンプレックスを返却する」というのです。それで「コンプレックスを返却する」といってねえ、「コンプレックスを返却する」といってねえ、「コンプレックスを返却する」といってねえ、

式典 先生は護国館を起して、おおりになることはどう思いますか。

先生 氣に食むことがあつたと聞いています。

式典 先生がおおりになるのは、下利をのんぬといふことではないでしょうか。

先生 それで、先生は先生が先生にそれをい

式典 先生は先生が先生にそれをい

生で、日清戦争も知らない人がいる、この人、

先生、先生は先生が先生にそれをい

式典 先生は先生が先生にそれをい

先生、先生は先生が先生にそれをい

式典 先生は先生が先生にそれをい

先生、先生は先生が先生にそれをい

式典 先生は先生が先生にそれをい

先生、先生は先生が先生にそれをい

式典 先生は先生が先生にそれをい

先生、先生は先生が先生にそれをい

神河

太田 尚

第三回 神河

道には向かすみ色の家裏が取り
自身の水着もが舞っていた
林立する樹のみなに
深い闇りが見えた
汗香の雫がサレーをくぐりぬける
急激な運動をうねうね上っていた
道沿山に響くい独り
ザラザラのような音がこぼれた
雲のなかで透明なでてゆく白い雨
霞のなかで透明になってゆく青い雨
やがて斜めに無數の灯がつかし
道は青白い霞と熱いベロリする音でほ

一 九月廿九日

壁

中村 源三

壁は近所のように目ざめていた
いたましい数回、赤の糸
遠い壁を透して冷たい息が来る
再び鳴かず、壁は見えぬ壁の空
雲は流れ、ゆく雨は流れ、秋の葉
壁は必死の人の前に紅い葉を降す
おれれた壁壁のかたすみの
四角の
壁壁は赤い土の壁壁だ

式場 そうですね、世いな、世いな、世いな

式場 だいたい壁はねくなくてしまふの

式場 すが、生理的に、まだお若いということ

式場 そうですね、それまだ、三十

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

式場 そうですね、お父さん、お母さん

気のいい、顔のいい所で、この何れか
 買ってでも行つたよん工合で、これなら
 少しは酒類雑誌に入れてもらいたい、長
 くはけませぬけれどね、そんなように
 思いましたね、個人を推す、資料をしてや
 るところにはあれが本人と云ふ悪いま
 したね。

今で私の雑誌に近い、雑誌という所には
 ような表をこころえ、それであはれ水を
 積たり、船を作つたりして遊してみよう
 と出て来りかかっているのがね、海
 軍でもありませんし、うしろは山があり、船
 乗船してとまよいのです、これは六十
 坪はあるおのずか、そこを右舷左舷と
 と船で回つてきたのすね、これはもろ船
 軍の練習用であつて、建物などはみな
 持つていってしまひ、いろいろな設備をく
 わしてしまつてゐる、雑誌の所長に「どう
 してまをなことをしてよとのか」といひた
 せ、それははなをいだけて行儀して儲
 けよといふので、雑誌をこしらへるとか
 料理雑誌をこしらへるとか、雑誌は雑誌にあ
 るのだけれども、それゆゑない、(それ
 ならんわしが)と笑つてこしらえて、無
 光に東洋人に雑誌をはかるというやうなこ

ととしよと遊つかう願ふか」といひたせ
 「おれは女大久保す」「女大久保すとい
 つても出長が代るといふ事だに知られ
 る、それはいやだから満当な雑誌で誰か
 「いの運ぶところよつたことやせ八でも
 次に書す」「おれは船に乗るといふのはも
 いひん、遊つても笑つてもかまはんから
 誰か」といふことをいつたのが、雑誌
 で書すといふことになつて、今そこを少し
 手をつけておきます、雑誌發行の人を助
 たり、まあ若者のおれにしような
 とでやう期あつておつてゐます。

遊興、この九月の初め第一巻出つて来りま
 してね、あつて八行つてもよつたつて
 した百は、船で船内にロリア遊ばせてあ
 るのですね、やうばりロリアと言葉が
 遊ばつたつたつてすね、だから今はき
 ひれてゐます。
 成程、よくですすね、ロリアで出いすのは
 長崎もよろだね、お城といふところ
 とか、オオトゲを出ますけれども、実
 際は一巻に船内にはロリア人で、ロリア人
 町もあつて、ロリア語の習習があつたよ、
 まあ日本人とロリア人のあいの子が一巻い
 いさすすね、遊興は遊興ロリアを承はんで

すよ。

遊興、若者の若者よくわかつた人、東大
 出の人ですがね、あつたおつたおつた
 船のしやうきいじつに「たも」ですや
 ら、ちよつとロリアと云ふ和英的が書
 ばれたちよつて、遊興に大かまををして、
 た、まあいろいろ遊んであつたもので、
 これを船かするの匠書かないでやうと思
 つたよ、ちよつとことは遊興といふこ
 とで、船もちよつて遊興で遊すいうま
 なことをした。
 成程、これはこの遊、今日はいろいろとお話
 をうかかせていたつたつて、どうもあ
 りがたつたつたつた、おつたおつたおつた

新 ブラフス料理
 松本樓 料理部 パーラー
 松本樓
 静か 特別 松本樓
 グリル 設備
 千代田区日比谷公園内
 (59) 〇 55 7 - 56 7 〇